

2004年（平成16年）3月25日 第31号
 ■編集：土屋品子後援会編集部
 ■発行：土屋品子後援会
 〒344-0062 春日部市粕壁東1-8-15
 TEL.048-761-0475 FAX.048-763-3475

2004.Vol.1
 土屋品子ホームページ OWLS NET WORK
<http://www.owls.co.jp>

ヌーベル13



外務委員会で質問をする土屋品子

つちや品子の国会レポート

2004年通常国会は、イラクの人道復興支援に関する国会審議で幕を開けました。そして、2月には、自衛隊本体がイラクの南部サマワに派遣されることになりました。このことに関しては、賛否両論あるもののイラクへの派遣が決定された昨年末と比較すると、多くの国民の皆さんが人道復興支援に対する理解をしていただいたことで、支持率が少しずつも上昇しています。私も、派遣される以上「多くの国民の皆さんが、自衛官に暖かい激励をして欲しい。」と訴え続けてきましたのでとても嬉しく思っています。

さて、今国会はイラク支援関係の審議で影を潜めています。年金改革や郵政事業民営化、教育基本法改正の問題、それに党では私の管轄でもある道路公団民営化関連法案の審議などが目白押しで、息つく暇も無いほどの忙しさにな

っています。平成16年度予算案は、衆議院を通過し年度内成立が確実となりました。また、憲法改正に関する自民党案の作成や継続課題としての北朝鮮拉致問題と関連する核保有疑惑なども重要な課題です。これまで厚生委員会や憲法調査会、外務委員会で扱ってきた内容、当選以来の課題である教育問題、外務大臣政務官として関わってきた政策課題や今後党の役割として取り組むことになった課題が山積しています。

皆さんにとってもですが、私自身にとってどれも手を抜くことができない政策課題であり、政治家としてこれだけの重要政策が数多く存在する状況で、国会に議席を頂いている責任の重さを改めて痛感しているところです。どれも私たちの生活に密接に関係している話題ばかりで、私が昨年の衆議院総選挙で公約として掲げた、政治

の生活密着宣言を実行するよい機会であるとも考えています。政策課題によっては、現場の視察を積極的に行い、皆さんにお知らせしていきたいと思っておりますし、逆にこれまで通り、皆さんからの情報提供もお待ちしています。

そして、最近の緊急課題といえばBSE問題や鳥インフルエンザ問題に代表される、食の安全保障ということになります。牛丼の吉野家から、牛丼が無くなる今日の事態をいったい誰が想定していたでしょうか。日本でのBSE発生以来、和牛の輸入を禁止しているアメリカの食品管理体制が、発生源となる牛の追跡を諦めるほど杜撰で、しかもこれからの輸入品に対する全頭検査という、日本政府の要望に応えられない状況では、他の食品に関しても疑いをもちたくなってしまいます。一方、国内に目を向けて見ますと食糧自給率は年々

下がる一方ですし、料理をすることができない若者が増えデパートでは加工済みの食品が良く売れる時代になってしまいました。これからは、日本人も自分たちの足元を見直し、地産地消（地元で取れたものを地元で消費する）運動を活発にしていきたいと思います。学校教育への食育導入と言う初当選以来の悲願も、自民党が先の衆議院総選挙で栄養教諭の採用という法案を提出したことで、現実一步近づきました。これからも、食に拘りを持って政治活動に取り組んでいきます。ご声援よろしくお願ひします。



川口外相の答弁を聞く土屋品子

日本は臓器移植後進国？

これまで、そして現在でも日本では、心臓や肺、肝臓などの臓器不全に苦しんでいる患者さんがたくさんいます。その多くの方々が、健康な臓器を移植することで命が助かるにもかかわらず、法律の規制によって助かる機会がせびめられているという現状があります。日本では健康なドナー（提供者）から臓器の一部をわけてもらう生体臓器移植は古くか

ら行なわれてきました。しかし、亡くなった方から臓器を移植する死体臓器移植については、厳しい制限がありました。臓器移植についての論争は、この死体臓器移植の解釈をめぐるなされているのです。

日本では長い間、死体臓器移植が許されるのは、ドナーの心臓が停止した場合とされていました。しかし心臓が止まって血液の流れ

が止まると多くの臓器も傷んでしまい、結果移植ができるのは角膜や腎臓といったごく限られたものになっていました。そのため、海外で先に認められたような、脳死体からの移植、つまり脳死の状態にあり、回復の見込みがなく自然状態では生命維持できない状態にあるドナーから心臓や肝臓を移植することの是非が論じられるようになりました。この脳死体からの臓器移植を認めるということは「脳死を人の死とみなす」という見解に裏付けられるので、その判断の倫理的是非が論点となったのです。日本の世論は、文化的背景もあって脳死体からの臓器移植については否定的、消極的な意見が主流でした。しかし一方で、当事者である患者さんは、助かるためには数千万円もの費用を集めて海外で移植を受けなければなりません。そのような中、「臓器移植に関する法律案」は平成6年の第129回国会に提出されましたが、なかなか進まず平成8年衆議院の解散に伴い、廃案になってしまいました。

私が衆議院に初当選したのは、

ちょうどその直後でした。私は、実際に苦しんでいる患者さんたちの命を一人でも、またひと時でも早く助けたいと考えていたので、脳死体からの臓器移植を可能にする法律の立法化に尽力しました。平成8年12月に、第139回国会に「臓器移植に関する法律案」を提出した中山太郎衆議院議員他13名の提出議員の一員となりました。衆参両院での可決、成立に持込めたのは翌6月、施行が10月のことでした。

患者さんが助かる道が開けたとはいえ、風当たりの厳しい世論のなかで通った法律は、対象年齢やドナーの条件など制限が多く、まだまだ多くの患者さんたちのためにあるとはいいがたいものでした。

最近では「臓器移植に関する法律案」の見直し、改正を求める声も高まっています。まだまだ賛否両論ありますが、これからも臓器移植推進の立場で、より多くの生きる機会を患者さんたちに提供できるように、年齢制限の見直しや指定病院の範囲拡大をめざして頑張っていきたいと思います。



様々な部会に出席しています



大陸棚調査ってなんだろう？

大陸棚とは陸と地続きの浅い海底部分をいうのじゃ。日本の周りには国土面積の1.7倍の大陸棚があり、ここは天然資源の宝庫といわれておる。今、国ではこの大陸棚の調査にむけ一歩ふみだしたところじゃ。

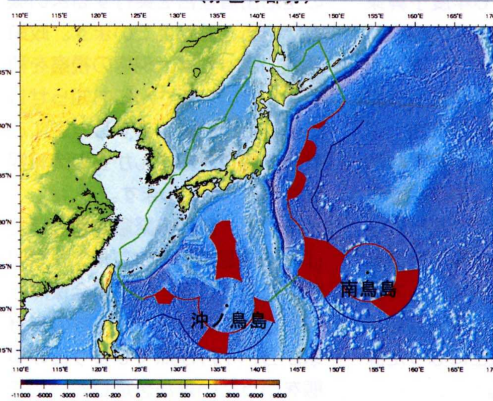
大陸棚がなぜ大事なのかというと、国連海洋法条約によって、沿岸国が大陸棚の海底や地下にある天然資源を利用できるとされ、いわば自国の領土のような権利が認められているからなのじゃ。大陸棚として認められる範囲は、国連海洋法条約によって沿岸から200海里までと定められておる。じゃが、今度、実際にはもっと広い範囲まで大陸棚が続いているということを示す資料を2009年までに

「国連大陸棚の限界に関する委員会」に提出し、海底の地形や地質など委員会の示す一定の条件にあれば、その分が国の権利として認められるということになったのじ

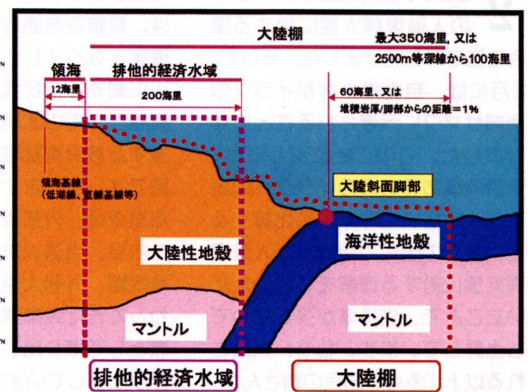
や。大陸棚の権利拡大は、せまい国土で資源が乏しく、これまでエネルギーや鉱物資源のほとんどを輸入にたよってきた日本にとって、資源国家になれる、またとないチャンスなのじゃ。日本全体の経済力は拡大し、よりみんなが豊かな国になれるということじゃ。権利

拡大が認められるためには、きちんとした調査結果を出し、資料をつくらなければならない。そのため、国は大陸棚の調査を国家プロジェクトと位置づけ、政府、企業、NGOが力をあわせて動き始めたのじゃ。品子さんも「大陸棚調査推進議員連盟」のメンバーとしてサポートにのりだしたのじゃ。

新たに我が国の大陸棚とできる可能性がある海域(赤色部分)



大陸棚の定義



INFORMATION

ボランティア

さわやかボランティアを募集しています。

「土屋品子」とともに新しい時代のさわやかな政治を実現しましょう。土屋品子後援会ではあなたの参加をお待ちしています。

「さわやかキャンペーン」ミニ集會に土屋品子をお呼びください。

各地区でミニ集會を開催中です。どうぞ友人や仲間と一緒にご参加ください。また、ミニ集會に土屋品子をお呼びください。

国会の中に入ったことがありますか？

国会見学にお越し下さい。土屋品子の職場であり、国の法律が決まる場である国会に見学に来て下さい。友人・知人と一緒に、何人でも結構です。

PROFILE

土屋品子 (つちやしなこ) : 1952年生まれ。粕壁小、浦和南中、共立女子高を経て、聖心女子大学文学部歴史社会学科卒業。料理研究家、フラワーアーティスト、短大・大学客員教授。1996年10月の総選挙で埼玉13区より初当選。衆議院議員。現在3期目。厚生委員、法務委員、決算行政監視委員、青少年問題に関する特別委員理事、衆議院憲法調査会、外務省大臣政務官を歴任。他に、麻薬・覚せい剤乱用防止対策推進議員連盟幹事、日本エジプト友好協合理事、日本防外センター運営委員、国会議員フットサルクラブ会長、対人地雷全面禁止推進議員連盟会長、日本アイランド友好議員連盟事務局長、日本カナダ友好議員連盟事務局長。

ご意見をお聞かせください。



【事務所】〒344-0062 春日部市粕壁東1-8-15
Tel.048-761-0475 Fax.048-763-3475
OWLS NET WORK <http://www.owls.co.jp/>
E-mail : otayori@owl1.owls.co.jp